

トヨタ・マツダの新工場はアラバマ州に決定

蟬本 睦

<アメリカでの報道>

当地報道によれば、1月10日、トヨタ自動車とマツダは、アラバマ州に新工場を建設すると発表しました。昨年の本誌9月号で「トヨタ、マツダ 1,600億ドルの自動車工場にアラバマを選んだ」という題で扱い、「アラバマにとって本当に偉大な日となった」と祝福するアイビー州知事の言葉とともに、進出先に決定したハンツヴィルに4千人の雇用を産み、年産30万台の生産能力を持った新工場の稼働が、2021年を予定していると報じました。

ウォールストリートジャーナル紙は同様に報じましたが、生産30万台のうち、半分はトヨタのカローラ、半分はマツダが車種は未定なるも生産する予定、と報じています。

<アラバマ州など、アメリカ南部・南東部への進出>

アラバマ州の位置を、地図を見ずに言える方は少ないと思います。同州は南部に位置する州で、一部メキシコ湾岸に面し、北はテネシー州、南はフロリダ州、西はミシシッピ州、東はジョージア州に面しています。

米国で自動車といえば、ビッグスリーが拠点とし、自動車の街として名高いミシガン州、デトロイト市を思い浮かべるかもしれませんが、しかし、近年では、日本、ヨーロッパなど海外勢力の拠点はデトロイトのある中西部を徐々に離れ、南東部、南部諸州への進出が進んできました。例えば、日産自動車の米国本社はテネシー州ナッシュビル近郊、そしてトヨタの全米どころか世界最大の製造拠点と言われる工場はケンタッキー州にあります（他にミシシッピ州やテキサス州、インディアナ州でも生産）。また、フォルクスワーゲンもテネシー州、KIAはジョージア州に工場を持ちます。

そして、アラバマ州にはすでに、本田技研（以下ホンダ）、現代自動車、メルセデスが進出していましたが、ニューヨークタイムズ紙によれば、「数々の航空産業の本拠地」としても称されていました。

筆者は南東部諸州の行政担当者とも面談した経験がありますが、自動車産業を引きつけた

マツダが新工場を含む業務資本提携を発表」と報告させていただきましたが、ついに新工場の進出先が決まったこととなります。

ニューヨークタイムズ紙は、同日付けの「トヨタ原因としては、南部や南東部の各州政府が大胆な優遇措置を用意して誘致に熱心だった事に加え、北部では労働組合に属する労働者が多いことから、比較的組合組織率の低い南部への進出が加速したともあるのではないかと考えています。

<自動車販売台数は伸び悩みも>

ニューヨークタイムズ紙は、華々しいアラバマ州への決定という同記事の中で、「7年間続いた新車販売のプラス成長は終焉し、2017年はマイナス1.7%、2018年、2019年もマイナス成長が予測される中、（トヨタ・マツダの）成功は、確信からは遠い」と述べています。

また、1月11日にジェトロが発表した、「2017年度米国進出日経企業実態調査」の調査結果によれば、2017年は回答企業の74.4%が営業利益の黒字を見込むが、輸送用機器部品の黒字比率は前年に比べ低下したと報じたほか、業種別景況感では、「輸送用機器・部品はすべてでマイナス」とアンケート結果を報じており、自動車産業における先行きの景況感の不透明さが浮き彫りになっていました。

そういった中、強気で攻めに出たトヨタ・マツダの両社の新工場建設がどのような結果を生むのかが注目されることでしょう。